

加悦谷

京都府立

加悦谷高等学校

【編集・発行】PTA広報委員会 平成25年2月



「勇往邁進」加悦谷から未来へ



「ご卒業おめでとうございます」PTA会長 藤 田 敏 一

会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。平素よりP T A諸活動に格別の御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業、まことにおめでとうございます。また、それを陰に日向に見守ってこられた保護者の皆さま、P T Aを代表し心からお慶び申し上げます。

さて、卒業生のみなさんは、初々しい姿でご入学されてからはや3年経ち、一人一人さまざまな経験を通じて大きく成長されました。卒業後の進路は、進学・就職とそれぞれ違いますが自分で選んで決めた道を目的に向かって進んで行ってください。今日までの高校生活では周りの人達に見守られ、また、良きアドバイスも受けて来ました。これまでは、人に支えられ達成できた事に感謝し、人を思いやる心を大切にし、これからは自分自身で考え、判断し、行動しなければなりません皆さんは加悦谷高等学校の卒業生です。これまでご指導頂いた先生・信頼できる友達がいつでも見守っていてくれる事と思い、歩んで行ってください。必ず素晴らしい人生の道が開けると思います。

私はこの言葉を、皆さんに送りたいと思います。

大好きな言葉で「人を愛し・愛される人に。人に感謝し・感謝される人に。」

さあ、卒業生の皆さん、希望を膨らませ頑張ってください。応援しています。

結びにあたり役員の皆様を始め、会員の皆々様、そして渡利校長先生を始め諸先生の皆様には、格別のご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。次年度以降も新しい役員の皆様のご活躍を先頭に加悦谷高等学校とP T A会員の皆様、在校生皆様の益々のご活躍とご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



「チャレンジ、フィニッシュ、スタート」 校長 渡 利 謙太郎

P T Aの皆様には、日頃より本校教育活動に大変御理解・御協力・御支援をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

本年度も、藤田敏一会長を中心に7名の本部役員様、そして各役員の皆様には大変御尽力をいただき、充実したP T A活動が展開されました。おかげさまで整った環境の中で、生徒たちも安心して学業等に打ち込むことができ、教育活動も円滑に進められたと喜んでいます。心より感謝申し上げます。

さて、本年度を振り返りますと、掲げた目標を達成するため、必死に取り組んできた1年であったと思います。3つの『シン』（真・信・伸）を合い言葉に、「ハイレベルな文武両道」、「一人一人を大事にするキャリア教育の実現」等を目指してきました。さらに本年度は府の事業「学力向上フロンティア校」の指定を受け、新しい試み『加悦高チャレンジ』にも取り組んできました。

主なものとして①振り返りシート(テスト前後学習時間・内容等記録)②読書週間(始業前20分間集中読書)③イギリス・アベリスツイスとの交流(歴史学習、文通、訪問団に参加)④英語コンテスト(1年生対象リーディングコンテスト)⑤漢字コンテスト(加悦高今年の漢字・書道パフォーマンスによる発表)⑥教職員の指導力向上(予備校・職場研修)⑦教科ニュース(全ての教科の新聞発行)⑧与謝野町俳句大会参加(1・2年全員)⑨ケーブルテレビでの部活紹介(生徒会)などの取組です。結果、学力向上のための意欲・関心、そして校内ムードが高まったと考えています。

結果、進路状況については、厳しい求人状況の中、23名(内地元13名)が就職内定をもらい、一方、進学面においても多くの生徒が年内に大学、専門・各種学校等へ合格を果たしました。あと約2割の生徒が、私大、国公立大への一般入試に果敢に挑戦しているところでもあります。また、部活動においてはウエイトリフティング部、陸上競技部、バレーボール部、書道部が全国大会で活躍し、加悦谷高校の名を全国に轟かせてくれました。部活動での頑張りは、たとえ全国・近畿に行かなくとも、生徒達にとって高校生活の貴重な思い出の1ページを刻んだことと思います。

中国の昔話、壁に描かれた龍があったが不思議なことに目に瞳が描き入れてなかった。人々はぜひ瞳を入れて完成してほしいと描いた画家にせがみ、仕方なく目に瞳を入れたところ、たちまち稲妻が起こり、龍は雲に乗って天に飛び立ってしまった。以来、「画竜点睛」(がりょうてんせい)が最後の仕上げを意味する言葉となりました。

3年生諸君、卒業おめでとう。3年間加悦谷高校で多くを学び経験し、立派に最後まで仕上げて、この度卒業の運びとなりました。今、まさに「画竜点睛」。さあ、勇気を持って新しい世界に向かって飛び立て!!

— PTA会員より —

卒業おめでとうございます

— 会 員 —

3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

この加悦谷高校で学んだ勉強、仲間との絆、先生方との信頼関係をこれから、社会人、学生生活の中で活かしていってほしいと思います。自分の思い通りにならなかった事も多々あったと思いますが、それを乗り越えてここまでできました。これからのあなた達の人生で、壁にぶつかった時、クラブ活動でつらさに耐えた事、勉強を頑張った事、体育祭で一致団結した事を思い出して下さい。

そして人に言われていやだと思った事は人には言わない。心の痛みのわかる人間になってほしいと思います。親は見守る事しか出来ませんが、未来に向かって羽ばたいて行って下さい。

皆様に幸多かれと祈って。



— 会 員 —

我が母校である加悦谷高校に娘が入学したのは3年前の春。入学式の時に懐かしさと、母として母校の門をくぐることに照れくささを感じてその日を迎えた事を、今懐かしく思い出されます。あれから3年。娘は高校生活の中で勉強と部活に明け暮れ、友達との楽しい時間を過ごし、毎日が本当に充実した3年間であったように感じます。そしてもうすぐ卒業の日を迎えます。卒業という次の未来のスタートラインに立ち、たくさんの学びや思い出を胸に、旅立とうとしています。将来の目標や、生活への期待感を笑顔で話す娘を見ながら、わが手元から離れる寂しさを感じずにはいられませんが、子育てもセカンドステージへの出発だ!と思い直し、次への準備をする日々です。高校生活でたくさんの指導や教授をいただいた先生方に感謝し、また自身の卒業の時の光景を思いだしながら卒業式を迎えたいと思います。先生方本当にありがとうございました。



「健闘を祈る」

— 会 員 —

3年生諸君、我が息子よ、卒業おめでとうございます。あなた方が生まれてから早や18年が過ぎました。この18年間色々なことがありましたね。生まれて間もない頃、1月17日の早朝、強烈な横揺れで飛び起きた父は、棚が倒れないよう支えてあなたを護りました。3月11日以来のニュース報道では大自然の驚異とともに、今ある普通の幸せに気づかされました。我が息子よ。富士山、東京、広島、浜松、富山、和歌山、名物を求めてあちこち旅に出ましたね。色々食べましたね。思い出がいっぱいです。

我が家と同様、それぞれの家庭にそれぞれの思い出が積み重ねられた18年。これからも、もっともっと重ねられていくことでしょう。物理的な距離は離れていても、すれ違っているように見えても、心はつながっています。健闘を祈る。祈るとは心から願うこと。



贈る言葉 ～3年担任団より～

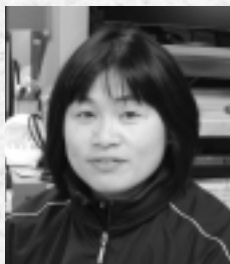


「おくる言葉」

学年主任 川 畑 勉

卒業おめでとうございます。あっという間の3年間ではなかったでしょうか。卒業を迎えるにあたり、今までの日々を振り返ってみてください。様々な出来事があったことでしょう。楽しかったとき、嬉しかったとき、そして辛くて苦しかったとき、そのとき、そこには家族の方をはじめ、身近な人達が君を応援し支えてくれたはずです。その支えを当たり前ではなく、ありがたいという感謝の心をもってほしい。一言「ありがとう」と言える人になってほしい。「ありがとう」を伝えたとき、君の周りの人は癒やされます。そこには爽やかな君があると思います。人は人と出会い成長します。良き出会いは、君の日々の努力と勇気で決まります。高校生活では授業、学校行事、部活動などで多くの人達と関わってきました。それらの関わりの中で様々な葛藤があったでしょう。コミュニケーションの必要性や忍耐、努力、挑戦、感動、感謝、これらの経験を積むことにより君を大きく成長させたことでしょう。たとえ高い能力を持っていても周囲の人と協調し感謝する心がなければ、その能力は生かせません。「一期一会」これからも、人との出会いを大切に感謝する心と努力を積み重ね、素晴らしい人生を歩んでほしいと思います。今後ますますの成長を期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様方には多くの御協力と御支援をいただきました。心より感謝し、お礼を申し上げます。



「充実した時間を」

3年1組担任 大 西 敦 子

ご卒業おめでとうございます。加悦谷高校での3年間はどのようなものだったでしょうか。充実した時間を送ることができたでしょうか。3年間で得られた充実感是人それぞれ、どのような過ごし方をしてきたのかで大きな差となって今ここにあります。

小学生の息子が自主勉強の題材として使用した「こども論語塾」という本の中に、次のような言葉がありました。

＜書き下し文＞

子曰わく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。 之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」

＜現代日本語訳＞

孔子先生がおっしゃった。

「あることを知っているだけの人よりは、それを好きになった人のほうがすぐれている。それを好きになった人よりは、そのことを楽しんでいる人のほうがもっと優れている。」

これから新しい道へ進まれる皆さんは、進学にしても就職にしても、今までに経験しなかった新しい多くの体験をします。そんなとき、ただそれをこなしたり、頭にたたき込んだりするだけではなく、何事にも興味をもって積極的に取り組んで欲しいと思います。わからないことがわかるようになったり、今までできなかったことができるようになったりすると、達成感を味わえます。達成感を味わうことで、それを好きになります。そのうちにそれを楽しめるようになり、ますます意欲を持って行動できるようになります。興味のある学問でも、仕事でも何でもかまいません。「知る・好きになる・楽しむ」この3ステップをたくさん経験して下さい。「何で自分がこんな事をしなければならないのか」とマイナスイメージで行動するより、どんなことにも楽しみを見いだしてプラス思考で行動できれば、同じ時間を過ごすにしても、充実感が何倍も違ってくるのではないのでしょうか。

皆さんのこれからの人生が、充実した幸多きものとなりますように。



「3年2組のみんなへ」

3年2組担任 小野田 博 基

卒業おめでとうございます。

私自身、河内先生からバトンを引き継ぎ、途中から担任になることは初めての経験で、不安な面も多々ありました。2年生の初めは、「去年はこうしたのに、なぜ今年はダメなんだ」と言われることもあり、すぐに河内先生に電話で確認していたのを思い出します。しかし、授業や学校祭で君たちと深く関わっていく中で、君たちの“優しさ”や“素直さ”

に多く触れることができ、このクラスの担任で本当に良かったと思えるようになりました。2年間、特に勉強については辛く感じることもあったかもしれませんが、しっかりとついてきてくれたことに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとう。私が担任になったとき、「加悦谷高校に入学して良かった、このクラスの一員で本当に良かった」と思えるような学校生活を送ってほしいという願いがありました。卒業を迎えた君たち一人一人の気持ちはわかりませんが、文化祭・体育祭で見た団結力からすれば、少しでもそのような思いを持ってくれたのではないかと感じています。

さて、これからそれぞれが様々な進路に進みます。今後の社会や経済がどうなるかわかりませんが、自分が決めた道を信じて迷わずに進んでほしいと思っています。例え他の道に進むことになったとしても、何かを目指したときに得た経験が次での武器になります。無駄な経験はありません。積極的にチャレンジするようにして下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様には大変お世話になりました。この2年間、その時々において精一杯やってきたつもりですが、至らぬ点多かったと思います。色々と御協力して頂き、本日卒業式を迎えることができました。ありがとうございました。



「今日という日を迎えて…」 3年3組担任 平 田 悠 馬

平成25年3月1日(金)、京都府立加悦谷高等学校第64期生として無事に卒業式を迎えることができることを心から祝福するとともに、感謝したいと思います。3年前、加悦谷高校に入学してきた時のあどけなさや緊張感が残る姿を今でも鮮明に覚えています。それから早くも3年、心身ともに大きく成長しこの日を迎えることができたことを嬉しく思います。何よりも一番考えなければならない進路に向けての取組みを進めながら、高校生活最後の様々な行事をクラス一丸となって充実させようと励む姿、その上後輩たちに多くのことを伝え残そうとする姿は、3年間の高校生活でより良い人間性を身に付け、行動する能力を身につけてきたのだと実感する瞬間でした。私自身、経験が浅く初めての担任だったこともあり、皆が悩み戸惑っている時に、満足な対応ができず迷惑をたくさんかけてきたように思います。それでも、皆と一緒に過ごしたこの3年間は毎日が充実していました。感謝の言葉以外の何にも変えることはできません。本当にありがとうございました。

さて、4月からは自らが選んだそれぞれの道へと進むことになります。第一志望の進路を叶えた者もいればそうでない者もいます。しかし、渡辺和子氏のこの言葉を胸に刻んでおいて下さい。

『置かれた場所で咲きなさい』

置かれた場所、そこが今の自分の居場所。高く険しい壁にぶつかっても「こんなはずじゃなかった」と考える前に、その場所で一花咲かせるための努力を惜しまず、常に前進する気持ちを忘れないでくださいね。



「卒業生のみなさんへ」 3年4組担任 皿 木 綾

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

みなさんの卒業を心から祝福します。

卒業アルバムの写真を選ぶ中、みなさん一人一人の入学当初の顔を眺め、この3年でどれだけ成長したことか、と感慨にひたりました。そしてこの多感な時期に、私たちがどれだけ影響を与えたのだろうか、と少し怖くなりました。

この発達した情報社会の中、この3年間でみなさんの接する社会は「加悦高」という狭い空間だけではなくたかもしれません。しかし、頭の中だけではなく、肌で触れ、味わい、身体で感じたのは、ほとんどこの場ではなかったのでしょうか。そしてこの小さな学校で、大人と接する機会の少ないみなさんに、私たち教職員の及ぼす影響はとても大きいと思います。私はみなさんを正しい方向へ導いていただろうか。間違ったことを教えていなかっただろうか。責任は重く、反省することばかりです。

でもこれから、みなさんは自分自身で選択し、自分を導いていかなければなりません。そしてそのための力を、私たちはこの3年間で育ててきたと信じています。これからみなさんは様々な社会の中で、多くの人と接することになります。加悦高で培った生きる力を、さらに高め、発揮して、強く生きていくことを期待しています。



自然の持つ美しさと厳しさに触れることができた修学旅行



修学旅行のしおり

出発日の前日、結団式で修学旅行団長の岸田副校長先生から大自然に親しみながら、スキー技能の向上と安全で安心な旅行になるようあいさつがありました。また、旅行委員長狩野君(2年2組)からは、親睦と友情を深めたいというあいさつがありました。

初日は、出発時間までに点呼が完了し、余裕を持って出発することができました。道中天候に恵まれ、予定の時間に到着し、ホテルでは部屋長会議・スキー班長会議・保健係会議を終え、初日を終わりました。

2日目は、小雪が舞い散る中、開講式を行いました。スキースクールのインストラクターによるデモンストレーションで盛り上がり、気持ちを高揚させた中で講習が始まりました。午前中は、開講式の場所で足慣らしをし、午後は、技能に応じて、色々なコースに行きました。

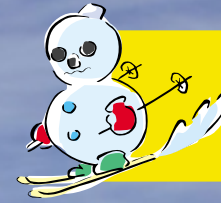
3日目は、朝から好天に恵まれ素晴らしい景色を見ることができました。講習でも汗ばむ陽気となり、スキーにも少しずつ慣れ技能も向上してきました。夜には、旅行委員会のメンバーが全体レクリエーションを主催し、イントロ当てクイズ・ジェスチャーゲームなど全員で楽しむことができました。

4日目は、少し天候も崩れたものの、標高の高いスキー場のため、最高の雪質で気持ち良くスキーをすることができました。夜にはナイタースキーに80名が参加し、スキーの楽しさを味わうことができました。

最終日は、猛吹雪となりました。氷点下20度の中、ツアースキーに全員が参加しました。昼食は、寺子屋スキー場、高天ヶ原スキー場、一の瀬ダイヤモントスキー場のレストハウスで好みの食事をしました。

13日(水) 解団式を行いました。修学旅行団長の岸田副校長先生からは、大変充実した修学旅行であったこと、2年生が学校の核になってほしいこと、今後もスキーに親しんでほしいことなど、振り返っていただきました。

今回の修学旅行で、自然の豊かさ美しさ厳しさを体感し、スキーをとおして運動することの楽しさを、集団生活から仲間の大切さと絆を学ぶことができました。



2月5日(火)～9日(土)

2月4日(月) 結団式



開講式での修学旅行団長あいさつ



ホテル到着



インストラクターによるデモンストレーション



スキー講習2日目



ナイタースキー

全体レクリエーション



感謝の言葉 各クラブキャプテン・部長より

「ウエイトリフティングに会って」

ウエイトリフティング部 鍛 治 ななみ

私は高校入学前の春休みから本格的にウエイトリフティングを始めました。初めの頃は環境が大きく変わることに不安が大きく、通うのが辛い時期がありました。でも、毎日練習に行っているうちにウエイトリフティングの楽しさが分かり、気が付いたら私の生活の中心になっていました。三年間の部活動の中で楽しかったことよりも、辛かったことの方が多かったかもしれないけど、それ以上に辛い練習を仲間と乗り越えた時の達成感や記録が伸びたり、大会でいい結果が出せた時の嬉しさの方が心に残っています。こんなに一つの事に集中し、夢中になれることを教えてくれたウエイトリフティングが大好きです。

今まで私を支えてくれた家族、ウエイトリフティングを通して出会った多くの先輩方や仲間、そして最後まで熱心に御指導して下さった顧問の川畑先生をはじめ多くの先生方に感謝しています。



「高校サッカー」

サッカー部 小 谷 主 水

実質、二年半のクラブ活動でした。最後の大会で敗退し引退を迎えた時には、「まだ続けたい。」という悔いが残りました。もちろん、キャプテンを任せられた時にはチーム全体が悔いなく終われるように大会で上位進出することを目標に頑張りました。しかし、チーム全体がその目標に向かって練習に取り組むのは難しく、全体がそろって練習できない日も多々ありました。それでもあきらめず練習に励み、率先して声を出した結果が最後の大会で、チーム一丸となって戦えたことにつながったと思います。キャプテンという大役を私が果たせたかどうかは分かりませんが、チームをまとめる難しさを学び、辛い練習も逃げずに努力できるようになったのは、キャプテンとして人間性が大きく成長したからだだと思います。

高校サッカーをしたことで充実した日々を送り、

貴重な経験をすることができました。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

「三年間で得た大切なこと」

女子バレーボール部 吉 田 瑞 穂

高校三年間のバレー生活は、とても内容の濃いものでした。両丹大会で順位を上げられたこと。近畿大会や全国大会に出場できたこと。キャプテンを任せてもらったこと。本当に多くの経験をさせてもらいました。

特に、キャプテンを任された時は、本当に自分がやっていたのか。チームをまとめられるのか。など、不安ばかりでした。その時、支えてくれたのはチームの皆でした。

一人では抱えきれない問題はチームの皆で相談し合い、乗り越えたから良い関係を築き上げられたと思います。このように皆で協力し合えたことが良い結果に繋がったのではないかと思います。

三年間の部活動を通して最も感謝の気持ちが大切であると気付きました。先生、コーチ、先輩やチームの皆、家族など周りの方々のご指導やご声援があったからこそ私達はバレーをすることができ、多くの経験が出来ました。この経験を活かし、人に感謝することを忘れないようにしていきたいです。

「主将の責任感」

硬式野球部 角 野 誠 也

私は、三年間野球部に所属していました。新チームからキャプテンを任せられ、貴重な経験をすることができました。キャプテンという立場は、予想以上に大変で、就任時は上手くチームを統率することができませんでした。一時期、数人の部員がチーム目標や勝利に向かって同じ方向に向かず、どうすれば同じ方向に向き、共に頑張ってくれるだろうかなど、キャプテンとしての責任もあり、毎日悩む日々でした。しかし、チームでのミーティングを何度も繰り返すことで、チーム力は高まり、また、両親や顧問の先生にもたくさん支えてもらい、最後には最高のチームとなり、楽しく元氣良くという自分たちらしい野球ができたことが、一生の思い出となりました。



三年間、高校野球をし、そしてキャプテンをしたことで、チームを統率するためには、まず「自分から行動すること」が一番大切なことだと実感しました。

今まで支えて下さった皆様に心から感謝します。



「陸上競技部の三年間」

陸上競技部男子 中 野 真 侍

私は高校から陸上競技を始めました。最初は何かもが新鮮で、何をしても楽しかったです。練習メニューを消化して、試合に出ると、タイムが伸びていきました。しかし、二年生になると、記録が伸び悩み、とても苦しみました。そんな時でも顧問の先生は熱心に指導してくださり、自分でもその原因を考えることができました。その後の大会では、記録を出すことができ、大会で結果が出たときの達成感を陸上競技を通して味わうことができました。

キャプテンという役職をさせていただき、リーダーシップを発揮する難しさや、先生から言われたことを皆に伝える難しさというのを感じました。そんな時にも、顧問の先生や、部員の皆が支えてくれて、頑張ることができました。陸上競技部に入部して、色々な経験をすることができ、良かったと思います。



「感謝」

陸上競技部女子 小 坂 奈 未

私が3年間陸上競技部で活動してきた中で1番に感じたことは、感謝することでした。1、2年生の時は自分のことに必死でした。しかし、3年生になり気持ちに余裕を持てるようになった

時に、本当にたくさんの人に支えてもらっているのだと気付きました。選手のことを考え、たくさん遠征に連れて行ってくださった顧問の先生方、試合や遠征のたびに朝早く起きてご飯を作ってくれたり自分につきあってくれた親、そして支えてくれた同期のみんなや後輩たち、本当にたくさんの人に支えてもらったことに感謝の気持ちでいっぱいです。キャプテンとして頼りない所もあったと思うけど、最後にこんな重要な役割を果たすことができ、本当に良かったです。ありがとうございました。

「キャプテンをして感じたこと」

バスケットボール部男子 井 上 寛 二

私は、3年間バスケ部に所属し3年生の時キャプテンをしました。中学校の頃もキャプテンをしていたので大変さが分かっていました。だからキャプテンに選ばれた時は嬉しさもありましたが不安も感じていました。でも、キャプテンに選ばれるということは先生やチームのみんなから認められているということだと思えるので、その期待に応えたいと思って頑張ってきました。実際に、つらいことがたくさんありキャプテンの重圧におしつぶされそうになったことは多々ありました。でもそんな時、チームのみんなや後輩、そして先生方に支えてもらい最後までやり切ることが出来ました。

たよりないキャプテンだったかもしれませんが、指導して下さった加藤先生、そして私を支えてくれてついてきてくれたチームの仲間、そしてマネージャーには本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

「感謝」

バスケットボール部女子 久 保 蒼

毎日の部活動は一番印象に残っています。練習はきつく、人間関係も上手いかなかったこともあり、つらく感じたこともありました。しかし、たくさんの人たちの支えがあり乗り越えることができ、目標としていた府下大会に出場することができました。

先輩方が引退され、新しいチームになってからは、公式戦で一度も勝つことはできませんでした。しかし試合をする中で「一生懸命すること」、「最後まであきらめないこと」を学べたと思います。そして何より仲間の大切さを学びました。はげましかったり、協力したり、仲間同士で支え合ってくれたからこそ頑張りがれたのだと思います。本当に仲間に感謝しています。

バスケットボールをするにあたり、指導して下さった加藤先生、やさしくしてくださった西村先生、本当にありがとうございました。

「私の3年間」

ソフトテニス部男子 小 西 貴 政



私たちの3年間を一言で表すと「変化」です。

一年生の頃の私たちは、部活動にあまり執着心がなく、練習に意欲的に取り組むことがありませんでした。しかし、明るい先輩方から優しく声をかけていただくことで、次第に部活動に行くのが楽しくなり、練習中も先輩方に追いつくために先輩の練習を見て、自分と先輩とは何が違うのかを考えるようになりました。

自分たちが最高学年になってからは、キャプテンとして自分だけが上手くなるのではなく、チーム全体が強くなるためにそれまでの練習をもう一度見直し、みんなの身になる練習を作っていくように努めました。そうすることで、目標としていた大会でも勝てるようになっていきました。

部活動に意欲的でなかった私がこのように「変化」をしていけたのも、家族、先生方、そして何より、共に切磋琢磨したチームメイトなど、たくさんの人たちの支えがあったからです。本当にありがとうございました。

最後に後輩たちへ。

来年は、私たちが先輩方から受け継いだ「粘り」に「飛躍」をプラスにして、どのような時でも活躍できるように努力を続けて下さい。

「仲間がいたからできたこと」

ソフトテニス部女子 市 田 恵 美

先輩が引退され、部長を任された時、私は不安でいっぱいでした。自分も練習してもっと上手になりたいけれど、部もまとめる役目もある。こうした焦りも加わり、練習しても身が入らないことが多く、また部もまとまらないことがあり、何度も自分が嫌になりました。

そんな時、私を助けてくれたのは、本気で言いあえる仲間でした。我を通して、顧問の先生に迷惑をかけましたが、指導をして下さいました。みんなの支えがあったから、私は部長を続けることができました。

辛いこともあったけれど、私は部の仲間とテニスをするのが大好きでした。部のみんな、顧問の先生方、本当にありがとうございました。

「キャプテンを任せてもらって」

卓球部 檀 上 雪

キャプテンを任せてもらっていた期間を振り返ると、自分には足りないものばかりだったと思います。そのせいで部員のみんなにもたくさん迷惑をかけてきました。でも、なんとか引退を迎えるまでキャプテンを続けてこれたのは周りの人達の支えのお陰です。本当に感謝しています。唯一の同学年で三年間、一緒に頑張ってきた副キャプテン、気持ちが折れそうな時はいつも励まして下さった先生、試合や練習に駆けつけて下さる先輩、練習と努力を重ねて結果を出している後輩達。卓球部の皆と関わってこれた事、引退まで卓球が続けられたことを本当にありがたく思います。この感謝の気持ちは、キャプテンをしてきたから一層感じる事が出来たと思います。頼りがいの無いキャプテンではありましたが、今まで本当にありがとうございました。



「剣道同好会」

剣道同好会 伏 原 滉 和

僕は、約3年間剣道同好会で活動していました。両丹の大会を中心に出場し、なかなか勝つことができませんでしたが、強い選手と試合ができ攻め方などの違いを知れたことが良い経験になりました。また、久美浜高校剣道部と合同練習も行い、他校の選手との交流も良い経験になりました。僕は、約3年間の活動で成績を残すことができませんでしたが、加悦谷高校として試合に出られたことがよかったと思います。僕が卒業したら同好会の人数が2人になり練習や試合が思うようにできないと思いますが、目標を持って頑張ってください。



「部活を通し学び、感じたこと」

合唱部 系 井 雅 乃

合唱部での3年間はあっという間で、合唱の知識や技術だけでなく社会の中でも生かすことのできる様々なことが体験でき、私にとってとても大切に特別な時間でした。今年度の京都府コンクールでは2年連続の金賞を獲得することができましたが、関西大会に繋げることはできませんでした。後輩たちにはこの悔しさを次に生かして頑張ってもらいたい。私が部長としてやってこられたのも、未熟な私に厳しくも温かい指導をして下さった顧問の先生方、時には真剣にぶつかり合った同級生、最後まで私を支え、ついてきてくれた後輩たち、またアドバイスをくださったたり励ましてくださったOGの先輩方、そしていつも支え続けてくれた家族のおかげです。これから後輩のみんなには、よりよい合唱部を作り、たくさんの人に知ってもらうために、様々なことに挑戦し仲間を増やして欲しいです。これまで私を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



「kreis—輪—」

吹奏楽部 野 木 明日香

私は中学生の頃、加悦吹の演奏を聴いて感動しました。夏の体験セミナーに参加したとき、とても楽しくて、入部したいと思ったことを今でも覚えています。その頃は、まさか自分が部長になるとは思ってもいませんでした。

吹奏楽部で過ごした3年間は、かけがえのない時間です。コンクール、定演などの大きなイベントも、もちろん大切な思い出ですが、私が一番心に残っていることは日々の練習の時間です。アットホームな雰囲気、優しい先生方、おもしろい先輩方、可愛い後輩たち、個性的な同級生。部室は毎日、楽器の音と笑い声で溢れていたと思います。そのような時間を仲間と過ごせたことを、とても嬉しく思います。

今までお世話になった先生方、両親、そして演奏を聞いて下さった皆様、本当にありがとうございました。

今後の後輩たちの活躍を期待しています。



「出 逢 い」

茶道部 杉 本 沙 弥

私は学年で一人ということもあり、最初は不安でいっぱいでした。しかし、優しくておもしろい先輩、後輩に支えられて、とても楽しく日々の部活をすることができました。

学校祭でのお茶会や2月に行われたきもの着付け教室では、たくさんの方々の前でお点前を披露するというので、とても緊張しましたが、みんなのおかげで何とかやり遂げることができました。

お茶の先生には優しく、時には厳しくお稽古をしていただきました。お茶会前には普段なら部活でない日もお稽古をしていただき、より完璧を目指すことができました。

茶道部に入って顧問の先生やお茶の先生、そして大切な先輩、後輩に出逢えたこと、みんなで部活をする中でたくさん喋り、笑い、たくさんの思い出ができたこと。すべてのことに今、心から感謝しています。ほんとうにありがとうございました。

「思 い 出」

ESS部 杉 本 沙 弥

私がESS部に入部した理由は、この部活を見学した時に先輩たちがALTの先生と楽しそうに会話されているのを見て、私も英語を使って先輩たちのように話してみたいと思ったからです。

週に一度の部活では、国調べや映画鑑賞、また外国のお菓子作りなど様々な活動を行ってきました。また、今年度は町の関係者の方々力を借りて与謝野町と親交の深いアベリスツイスの高校生と文通することもできました。どの活動をするときにも部員みんな協力して、楽しく外国について学んだり、外国の文化に触れることができたので良かったです。顧問の先生やALTの先生、力を貸して下さいました町の関係者の方々、先輩、同級生、後輩のみんな、ありがとうございました。



『きもの着付け教室』

今回で24回を迎えますPTA主催のきもの着付け教室及び閉講式が2月24日(日)に多くの来賓をお迎えし盛大に行われました。

着付けは長島美代乃先生、藤田美千代先生にご指導いただき、また、ヘアメイクは美容学校の生徒さんのご協力を得て素晴らしくきれいに仕上がり、見違えるほどのおしとやかな女性に大変身しました。

お茶会では、茶道部の皆さんの心のこもったお点前を披露していただき、たいへんおいしくいただきました。

これからもこの着付け教室が末永く続きますようお願いし、着付け教室に参加してくれた生徒の皆さん、関係各位の方々に感謝を申し上げ研修委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。

(研修委員長：山崎 哲典)

